

日本脂質生化学研究会
(JCBL)

日本脂質生化学研究会 サークュラー 1999

目 次

第41回日本脂質生化学研究会・研究集会のお知らせ	1
平成11年度日本脂質生化学研究会総会のお知らせ	3
第41回研究集会発表演題の募集	5
第41回日本脂質生化学研究会・研究集会宿泊のご案内	9
第41回日本脂質生化学研究集会を企画するにあたって	13
玉井洋一	
第40回日本脂質生化学研究会を主催して	15
矢野郁也	
6年間有り難うございました	17
野島庄七	
脂質生化学研究の発表の場	19
脊山洋右	
「生理活性脂質データベース」構築にあたって	21
大島美恵子	
第39回国際脂質生化学会議(ICBL)に参加して	25
池澤宏郎	
第39回国際脂質生化学会議：台風一過晴れ	28
花田賢太郎	
第40回国際脂質生化学会議(ICBL)のお知らせ	29
訃報 Professor George J. Schroepfer, Jr. の死を悼む	30
赤松 稔	
会の活動状況	31

第41回日本脂質生化学研究会・研究集会のお知らせ

- 期日： 1999年6月3日(木)・4日(金)
- 会場： 鎌倉プリンスホテル バンケットホール七里ヶ浜
鎌倉市七里ヶ浜東1-2-18 (Tel. 0467-32-1111)
- 実行委員長： 玉井洋一 北里大学医学部生化学
〒228-8555 相模原市北里1-15-1
Tel & Fax 042-778-9118 E-mail lipid41@med.kitasato-u.ac.jp
- ホームページ： <http://www.kitasato-u.ac.jp/lipid41/index.html>
- 発表形式： すべて口頭発表
A 講演：発表15分+討論5分=20分
B 講演：発表10分+討論5分=15分
講演時間は変更することもあります。
一般講演はOHPのみ(1台)使用します。スライドプロジェクターは、特別講演とシンポジウムのみに用意します。
- 特別講演： 「細胞認識とシグナル伝達に関与するスフィンゴ糖脂質」
箱守仙一郎 (Pacific Northwest Research Institute; University of Washington)
- シンポジウム： 「脂質の学際的研究-21世紀への新たな展開をめざして」
- 集会参加費： 事前参加登録費 5,000円、当日参加登録費 6,000円
昼食代 1,000円/1回(2,000円/2日)会場内および周辺にはレストランが少ないので、会場で昼食を用意します(弁当の販売は致しません)。事前にお申し込みいただくことをお勧めします。
- 懇親会： 鎌倉プリンスホテル バンケットホール
6月3日(木)18:00から
参加費：5,000円 当日は先着順で受け付け致します。
- 演題申込み： 演題申込み締切日 3月31日(水)5-6頁をご参照下さい。
- 事前参加申込み： 事前参加申込み締切日 5月10日(月)(5月下旬に参加証を送付します)
参加登録費、懇親会費、昼食代はできるだけ事前にお申し込み下さい。同封の振替用紙をご利用下さい。
名誉会員、賛助会員の皆様には別途ご案内申し上げます。
- 宿泊関係： 宿泊の予約をご希望の方は、JTB 湘南藤沢支店が取り扱います(9頁)。共済組合等の公共宿泊施設と鎌倉市内のホテル・旅館は各自でお申し込み下さい。
- 会場への交通： JR 横須賀線鎌倉駅またはJR 東海道線・小田急線藤沢駅から江ノ島電鉄に乗り換え、七里ヶ浜駅下車、徒歩7分(詳細は4頁)。

第41回日本脂質生化学研究会・研究集会
特別講演およびシンポジウムのお知らせ

○特別講演：6月3日（木）

「細胞認識とシグナル伝達に関与するスフィンゴ糖脂質」

箱守仙一郎

(Pacific Northwest Research Institute; University of Washington)

○シンポジウム：6月3日（木）

「脂質の学際的研究－21世紀への新たな展開をめざして」

1. 核内受容体 (PPAR) の生理的機能：小腸における脂肪吸収・運搬・分泌の制御

青山 俊文 (信州大学医学部 加齢適応研究センター)

2. レプチンによる体脂肪量の調節

蒲原 聖可 (順天堂大学医学部 内科学)

3. 脂肪細胞とインスリン抵抗性－生活習慣病の分子メカニズム

門脇 孝 (東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科)

4. リポ蛋白質を含むエンドゾームの副腎/グリア細胞内輸送の可視化解析

川戸 佳 (東京大学大学院広域科学専攻 生命物理学)

5. 膜蛋白質複合体・チトクロム酸化酵素中のリン脂質の構造と機能

月原 富武 (大阪大学 蛋白質研究所)

平成11年度 日本脂質生化学研究会総会のお知らせ

上記の総会を平成11年6月3日（木）17:15～18:00（予定）鎌倉プリンスホテル バンケットホール七里ヶ浜 に於いて開催いたします。ご出席賜りたく存じます。

会長 脊山洋右

議題 1. 平成10年度事業報告

2. 平成10年度決算報告ならびに監査報告

3. 平成11年度事業計画ならびに予算案

4. その他

平成11年度 日本脂質生化学研究会幹事会のお知らせ

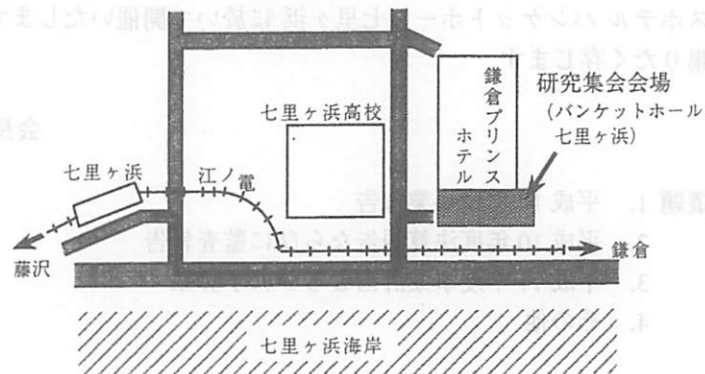
上記の幹事会を平成11年6月3日（木）12:10～13:10（予定）鎌倉プリンスホテル バンケットホール七里ヶ浜 に於いて開催いたします。幹事の皆様のご出席をお願い致します。

会長 脊山洋右

議題 1. 平成11年度日本脂質生化学研究会総会への提案事項の検討

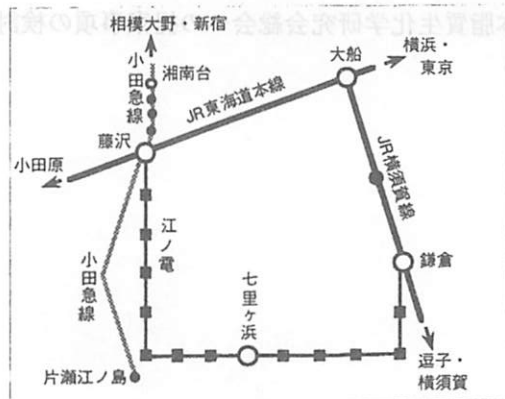
2. その他

会場のご案内



交通のご案内

東京	55分	鎌倉	14分	七里ヶ浜	7分	会場
	JR 横須賀線	江ノ電	江ノ電	徒歩		
京	47分	藤沢	19分	七里ヶ浜	7分	会場
	JR 東海道線	江ノ電	江ノ電	徒歩		
羽田空港	30~40分	横浜	25分	鎌倉	14分	会場
	京浜急行バス	JR 横須賀線	江ノ電	江ノ電	徒歩	
小田原	34分	藤沢	19分	七里ヶ浜	7分	会場
	JR 東海道線	江ノ電	江ノ電	徒歩		



タクシー
鎌倉駅西口から約15分 (約2000円)
藤沢駅南口から約20分 (約2500円)
○ 鎌倉駅にてJRから江ノ電への乗換えは西口へ
○ JR東海道線と小田急線藤沢駅から江ノ電藤沢駅へは、改札を出て小田急デパートに通じる歩道橋を渡る (ホテル案内の地図参照、11頁)
○ 江ノ電鎌倉駅、藤沢駅発車時刻
両駅ともに、
毎時 00、12、24、36、48分

第41回研究集会発表演題の募集

○演題の申し込みについて

1. 必要事項を記入した演題申し込み用紙とコピー2部
2. 講演要旨とコピー2部

以上を揃えて、平成11年3月31日(水)までにお送り下さい。

講演要旨は、A4の白紙(2枚以上4枚以内)に別掲の要領(6頁)で作成して下さい。

演題採択は審査により決定しますのでご了承下さい。

○講演要旨送付先

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学医学部代謝生理化学内

日本脂質生化学研究会事務局

Tel 03-3812-2111 内線3496

Fax 03-5689-2704

E-mail: JCBL@bio.m.u-tokyo.ac.jp

○研究集会についての問い合わせ先

〒228-8555

相模原市北里1-15-1

北里大学医学部生化学内

第41回日本脂質生化学研究会実行委員会

Tel & Fax 042-778-9118

E-mail: lipid41@med.kitasato-u.ac.jp

第41回日本脂質生化学研究会・研究集会 宿泊のご案内

この度、第41回日本脂質生化学研究会が古都鎌倉にて開催されますことを、こころよりお慶び申し上げます。この度皆様方のご宿泊の手配を担当させていただきます私共はJTB湘南藤沢支店でございます。

下記の通りご宿泊のご案内を申し上げます。皆様のご利用、お申し込みをお待ち申し上げます。

1. 宿泊のご案内

宿泊日：平成11年6月2日（水）～ 6月4日（金）

No	ホテル名	シングル	ツイン	備考
1	鎌倉プリンスホテル	¥20,000*	¥12,000	会場利用（*ツインのシングル利用）
2	藤沢グランドホテル	¥12,000	¥11,000	JR 藤沢駅北口より徒歩4分
3	クリスタルホテル藤沢	¥10,500	¥9,800	JR 藤沢駅南口より徒歩6分
4	ホテル法華クラブ藤沢	¥9,700	¥9,200	JR 藤沢駅南口より徒歩5分
5	インテリジェンスホテル330 藤沢	¥9,600	-	JR 藤沢駅北口より徒歩3分
6	ホテルオーシャンテラス	¥9,500	¥9,000	JR 藤沢駅南口より徒歩7分
7	湘南台第一ホテル	¥8,360	-	小田急線湘南台駅西口より徒歩1分（湘南台～藤沢間10分）

※上記料金は、1泊朝食・税金・サービス料込みの一人様料金です。

※ツイン料金は、1室お二人様でご利用の場合です。同室者のお名前もご記入下さい。

※部屋数に限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

2. 申込み方法

別紙お申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXにて下記までご送付下さい。前泊、延泊をご希望のお客様は、通信欄にご記入下さい。ご希望のホテルが満室の場合は、他のホテルをご案内させて頂くことがあります。

申込書受理後、宿泊券、請求書等を送付致しますので、費用全額を下記指定口座にお振込み下さい。なお、通信費としてお一人様500円を申し受けますので、予めご了承下さい。

〈振込先〉銀行名：横浜銀行 藤沢中央支店

口座番号：普通預金 201251

口座名：株式会社 日本交通公社藤沢支店

3. 申込み・問い合わせ先

JTB 湘南藤沢支店（担当：中野）〒251-0055 藤沢市南藤沢 23-10-101

Tel: 0466-27-3110 Fax: 0466-27-6850

講演要旨と演題申し込み用紙を送る際には、この頁をコピーして下記のラベルを切り抜き、封筒にお貼り下さい。締め切りは平成11年3月31日（水）です。

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学医学部代謝生理化学内

日本脂質生化学研究会事務局

4. 宿泊取り消し

お申込み後の宿泊の変更・取り消しの連絡は書面にて早めにご連絡下さい。下記の取り消し料および通信費（500円）を差し引いた金額を研究会終了後に返金します。

取り消し連絡日	宿泊日の20日前 ～10日前まで	宿泊日の9日前 ～2日前まで	宿泊日の前日	当日および不泊
取り消し料	20%	30%	50%	100%

5. ご宿泊ホテルから会場までの交通について

（11頁の地図をご参照下さい）

第41回日本脂質生化学研究会・研究集会 宿泊申込み書

申込み締切：平成11年5月24日（月）

(ふりがな) 申込代表者氏名	勤務先名
郵便物送付先	〒
Tel :	Fax :

該当する日付に○印をご記入下さい。

(ふりがな) お名前	宿泊日			第一希望 ホテル番号	第二希望 ホテル番号	部屋 タイプ*
	6/2 (水)	6/3 (木)	6/4 (金)			
						S
						T
						S
						T
						S
						T
						S
						T
通信欄						

*コピーを取り、控えとしてお持ち下さい

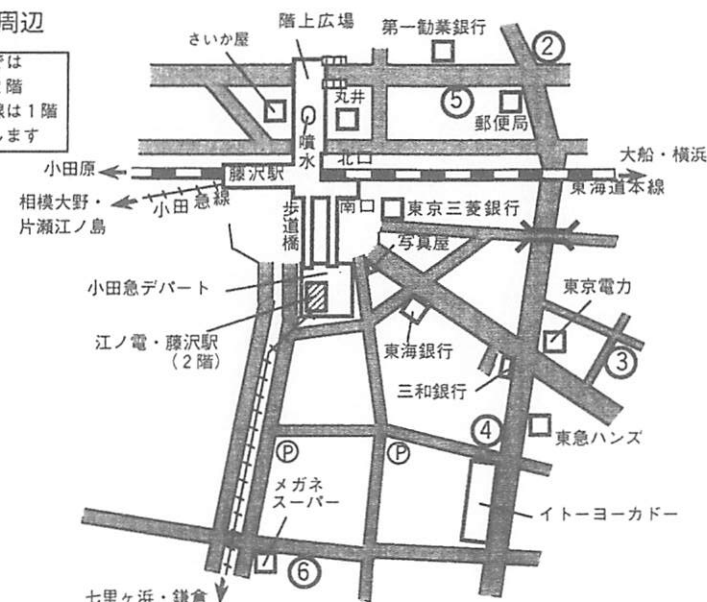
送付先：JTB 湘南藤沢支店（担当：中野） Fax：0466-27-6850

ホテル案内

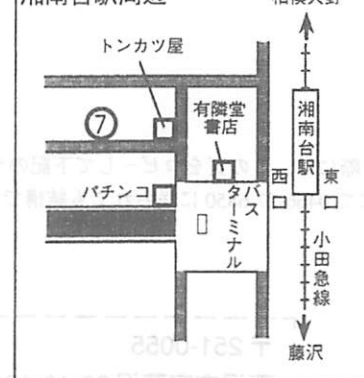
図中の番号は「宿泊のご案内」のホテルNo.に対応しています。

藤沢駅周辺

藤沢駅では
JRは2階
小田急線は1階
に到着します



湘南台駅周辺



湘南台駅から会場への交通
は4頁の交通のご案内を参
照して下さい

2 藤沢グランドホテル

5 インテリジェンスホテル330 藤沢

3 クリスタルホテル藤沢

6 ホテルオーシャンテラス

4 ホテル法華クラブ藤沢

7 湘南台第1ホテル

第41回日本脂質生化学研究集会を企画するにあたって

実行委員長 玉井 洋一

この度、第41回日本脂質生化学研究集会の実行委員長を仰せつかりました。この研究集会は、発表の内容もたいへんレベルが高く、世界の脂質研究の進歩に大きく寄与してきたことを考えますと、この大役が与えられましたことはたいへん光栄であり、同時に責任の重さを感じます。脊山洋右新会長のもとでの最初の研究集会でもありますので、その船出にふさわしい研究集会になるように、また会員のみな様のご期待に添えるように、現在、鋭意準備を行っています。研究集会への参加、演題発表の要領などにつきましては「研究集会のお知らせ」に詳しく紹介してありますのでご覧下さい。

20世紀から21世紀への転換期にあたる研究集会を意義あるものにするためには、今世紀の脂質研究の成果を総括し、その流れを確認した上で、その延長線上に新たに始まる世紀への展望が描けるようなプログラムを企画するのが理想的でありましょう。しかし、その理想を実現するには期間が短すぎます。そこで未来への展望は過去の総括の上にあるという前提のもとに、ご案内の特別講演とシンポジウムを企画しました。特別講演をお願いしました箱守仙一郎先生はいまさらご紹介する必要もないことと思います。一昨年12月、この研究集会にかけるわれわれの思いをお伝えし、おそろおそろご講演をお願い申しあげましたところ、即座にご快諾いただき、その上、さらにsolidなデータを積み上げて研究集会成功のために協力したい、という実行委員会にとってたいへん心づよいお返事をいただきました。先生は東北薬科大学にご在職の1963年、東北大学薬学部の奥井誠一先生が第5回日本脂質生化学研究集会を仙台で開催された時に世話人の一人としてお手伝いされていて、今回の研究集会への参加を楽しみにしておられます。箱守先生が研究の場をアメリカに移されてからこの研究会で先生のお話を聞くのは始めてのように思います。スフィンゴ糖脂質の生理機能について、新しい知見を披露していただけるものと期待しています。

シンポジウムの主題は、先に述べました21世紀における脂質研究の発展を期待する思いを込めて企画しました。脂質生化学に研究の場はあるが視点は外に広がっている、あるいは逆に脂質生化学の外で研究をさ

宿泊申込み書を送る際には、この頁をコピーして下記のラベルを切り抜き、封筒にお貼り下さい。FAXにて0466-27-6850に送られても結構です。

〒251-0055

藤沢市南藤沢23-10-101

JTB 湘南藤沢支店

れているが脂質も視野に入れて学際的に研究されている、そのような5人の方にご講演をお願いしました。シンポジストのほとんどは本会の会員ではなく、しかも21世紀に活躍が期待される若い世代の研究者です。またそれぞれのテーマは、従来の研究集会の演題からはみ出しているものかもしれません。日頃からわれわれも興味を持っていながら、学会などではなかなか聞く機会がないのではないのでしょうか。個々のテーマ相互の関連性よりも、むしろ脂質生化学研究の多様性を特徴づけることができればと思っています。特別講演も含め、「脂質の学際的研究—21世紀への新たな展開を目指して」という主題を企画しました実行委員会の意図をお汲みとりいただければ幸いです。なお、シンポジウムを企画するにあたり、飯田静夫先生（東京医科歯科大学）と井上圭三先生（東京大学）、それにシンポジストの一人、門脇孝先生（東京大学）から貴重なご助言をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

ところで、今回はじめての試みとして、研究集会のためのホームページを開設しました。アドレスは「研究集会のお知らせ」に記載してあります。脂質生化学研究 Circular1999 にあります情報のほか、鎌倉、江ノ島周辺の観光についての情報へもアクセスすることができます。言うまでもなく鎌倉は奈良、京都とならぶ日本の古都の一つで、史跡に富み、また海や山など自然も豊かです。研究集会とあわせて（もちろん研究集会の後で）、ぜひ歴史の跡を訪ね、自然の中を散策されることをおすすめします。それでは6月、みなさまと会場でお会いできますことを楽しみにしています。

第40回日本脂質生化学研究会を主催して

大阪市立大学医学部細菌学教室

矢野郁也

第40回日本脂質生化学研究会は平成10年7月2日(木)及び3日(金)に大阪市立大学医学部医療研修センター・医学情報センター内の3会場で開催された。

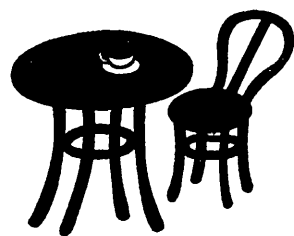
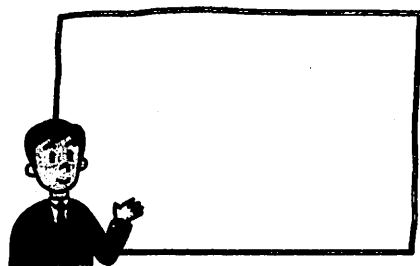
脂質生化学の研究はタンパク質や核酸の研究とはことなり、地味な面が多く生化学のトピックスとして桎梏に出ることの少ない分野であった。けれども以前脂質の機能が細胞膜の脂質二重層成分として生体膜の流動性に関わっているとしか考えられていなかった時代と比べてこの40年間に脂質の生理的役割は大きく、広く理解されるようになった。栄養学的な面を始めて免疫現象や病態と深く関わっていることが明らかとなって次第に興味が深まり多くの人々に関心が持たれるようになってきた。現在の脂質生化学研究の最も中心的な話題は必須脂肪酸($\omega 3$ や $\omega 6$ 系列)の生理的役割やエイコサノイドなどのアラキドン酸誘導体の脂質メディエーターとしての機能(及びこれらの代謝)、糖脂質の細胞表層におけるマーカーとしての役割と、特に細胞の癌化と関連した抗原の発現(又は消失)、それに毒素や細菌のレセプターとしての脂質、様々の免疫疾患とかかわる自己抗原としての脂質、毒素や免疫調節物質としての各種脂質など実に多岐にわたっている。

今回の本学会ではこれをふまえて「生理活性脂質の新しい展開」と題して1日をシンポジウムとし、オーガナイザーに飯田静夫(東京医科歯科大学)、大島美恵子(国立国際医療センター)両先生をお願いした。当日は、終日200名近い出席者によって活発な討論が行われた。

特別講演には、細胞壁に多量の脂質を含有し、免疫アジュバンド物質として、また病原因子としてもユニークな成分をもつ結核菌の表層脂質の免疫調節活性について米国コロラド大学 Patrick Brennan 教授を招へいし、約1時間にわたる講演に大きな拍手がおくられた。

梅雨明けの晴れ間の暑い2日間ではあったが会場内は涼しく、延べ250名の参加と80題をこえる演題が発表され、リラックスした会場で自由活発な討論ができ、まことに好評で有意義な2日間であった。懇親会は近くの天王寺都ホテルで開かれ、これにも Dr. Brennan 始めとして160

名の参加があり和気あいあいとした雰囲気の中で夏の一夜を歓談した。
(第40回日本脂質生化学研究会 実行委員長)



6年間有り難うございました

前会長 野島 庄七

この度は脊山洋右先生に会長をお願いすることになりました。私と同様、会員の皆様のご協力、ご援助、ご助力を脊山先生にお願い致します。

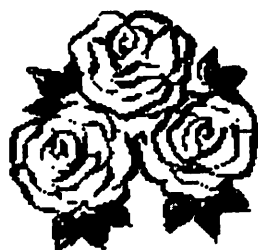
願いますと丁度6年間なんとかこの研究会をお世話したことになります。山川先生からバトンタッチを受け、植田幹事から会の財産その他を引き取り出発しました。

先ず前からの懸案であった研究会の事務的な部分をさしずめ二つに分けました。これはサーキュラー（1998）の最後に「研究会事務の取り扱い内容と連絡先」とあり、一目瞭然です。前もって一度学会事務センターの山崎さんと相談してから、あとは瀬高幹事、佐藤典子さんといろいろと詰めていただきました。事務委託費を特に支払いしても心配はないようでありました。ただこれ以上に会事務局のをお願いすると相当の額になるということで、残りの事務的なことは大学の方ですることにしたように思います。前々会長の際は全部事務局で処理していたのだからそれは大変だったと思います。その結果、前々事務局の方は「失職した」という表現でサーキュラーに感想をもらしておられたことを覚えています。

事務局にはあと赤松幹事に加わっていただき、いろいろと助けて頂いていたようですが、詳細は知りません。

サーキュラーの編集では多くの会員の方々に原稿をお願いしました。私の記憶ではどなたもお断りになった方はなかったようでした。できるだけ重複しないようお願いしていたつもりです。ただ会員をつなぐ唯一の紙面でありますので大切にしなければいけないと考えました。昨年の編集の時に新たに幹事になられた方々にお願いすることにしたところ、投稿をお願いした先生方は、皆特徴ある、個性的で脂質研究に関係のある原稿を出して下さいました。小生も、始めてその先生方のお考えになっていることがよく理解できました。この方針はこの先も続けていただいた方がよいと思います。今手許にある1998年のサーキュラーを開いてみて見ると、学会の見聞記にしても、著者が個性的であるのか、魅力的な玉稿であります。6年

間のサーキュラー全てに本当に心を入れて投稿して下さった会員の方々に御礼申し上げます。名誉会長さん、名誉会員の皆さん、幹事の皆さん、また会員の皆さん、更に賛助会員である企業の方々、学会事務センターの山崎均さん始め皆さん、本当に6年間有り難うございました。紙面を借りて厚く厚く御礼申し上げます。これからの脂質生化学研究会の発展に幸いあれかしと心からお祈り申し上げます。



脂質生化学研究の発表の場

会長 脊山洋右

平成11年(1999年)から日本脂質生化学研究会(JCBL)の会長を務めることになりました。安田守雄、原一郎、山川民夫、野島庄七という歴代会長の努力の結果、本会は800名を超す会員を有する脂質生化学の研究者集団として育って参りましたが、同じ分野の者が一堂に会して研究成果を交流するには最適な規模といえましょう。

同じ様な歩みをしてきたものとして国際脂質生化学会議(ICBL)があります。1987年に第29回会議を東京で開催しましたのでご記憶の方も多いかと思いますが、このときは海外から200名、国内から300名という盛会でした。通常はヨーロッパで年に回開催されて、150名前後が参加するという規模で行われております。日本からは毎年10名を超える研究者が参加して発表しており、開催国以外では常に最大派遣国となっております。

ところで、JCBLとICBLという2つの兄弟組織は創立以来の歴史といい、運営形態にも似たものがある、両者間の交流にも親密なものがありますが、研究発表の場としての設定の仕方には多少の違いがあります。JCBLが6月前後に年に1回開かれる研究会の場で、脂質生化学の全ての分野を対象とするのに対して、ICBLは9月に開催される3日間の会議で3つのテーマに絞っている点でJCBLとは異なっております。もっともICBLもポスター発表としては全ての脂質生化学研究を受け入れており、それぞれの年のテーマに関する演題もポスター発表を義務づけておりますので、テーマとして取り上げられたかどうかはあまり気にせずに参加できるようになっております。

この違いはヨーロッパが通貨の上ではユーロに統一されたとはいえ、多くの点でまだまだ国の集まりという意識があつて、同じ様な会を毎年新鮮に開催していく上での知恵が上記の運営形態を編み出したものといえましょう。150名の参加者のうち30名位はその年のテーマに関係なく演題を出して参加する常連であり、120名位がその時々々のテーマで参加する者、というのが実態のようです。

日本は幸いにして1つの国ですので、生化学会のような巨大な学会とはひと味違った発表の場としてのJCBLが求められており、2日間で脂

質生化学の研究者が平等に各自の研究成果を発表できることが基本だと思います。勿論、それぞれの年会の実行委員長の特徴を出すことも大切で、それがシンポジウムと招待講演という形で表わされております。

平成 11 年度の研究集会は玉井洋一実行委員長のもとで「脂質の学際的研究—21 世紀への新たな展開をめざして」というシンポジウムと、箱守仙一郎氏の「細胞認識とシグナル伝達に關与するスフィンゴ糖脂質」という特別講演が組まれているのも、このような運営形態の表れであります。

抄録集も会員だけに配布される限定出版ですが、ICBL も第 36 回会議までは同じ形態をとっておりました。それが、3 年前からは Chemistry and Physics of Lipids という国際誌に掲載されるようになりました。引用文献として使われますし、読者層が格段に広がったといえましょう。JCBL としても今後の検討課題の一つかと思ひます。

日本脂質生化学研究会の最大の事業は年に 1 回の研究集会を開催することであり、次にこの脂質生化学研究 Circular を通じて会員の交流をはかることでありますが、数年前から脂質データベースの構築を支援するという事業が加わりました。これは文部省の科学研究費に基づき林陽先生が中心になってすすめられ、平成 8 年度からは科学技術振興事業団のプロジェクトとして大島美恵子先生が中心になって活発にデータを集積しつつある事業です。インターネットを通じて世界に情報公開することを目指した国際的なプロジェクトですが、日本脂質生化学研究会の会員が積極的に協力をしてはじめて成し遂げられるものであります。今後ともこの会として支援できるよう会員の方々の御理解を得たいと願っております。

脂質生化学の研究者も以前のように古典的な脂質の研究からスタートした者だけではなく、他の領域で研究をしていてたまたま脂質に注目したという者も多くなり、生理活性とか遺伝子発現機構などで優れた仕事をされる研究者も増えてきました。日本脂質生化学研究会としてはこれらの方々にも積極的に加わっていただいて、会の活性化をはかっていきたいと願っております。

脂質関連の学会が増えてきた現状をふまえ、伝統有る日本脂質生化学研究会を常に新鮮でバランスの取れた脂質生化学研究の発表の場として先端をいける学会となるよう努力して参りますのでご支援の程、お願いいたします。

[生理活性脂質データベース] 構築にあたって

国立国際医療センター研究所

大島 美恵子

[生理活性脂質データベース] プロジェクトも今年の秋で第 1 期 3 年目が終了いたします。昨年の脂質生化学研究 Circular 1998 で [生理活性脂質データベースの進捗状況] を報告させていただきました。それからほぼ 1 年経過しましたので、現在の進行状況をご報告したいと思います。今後研究費が継続されるかどうかについては、いまのところよくわかりませんが、文部省と科学技術庁との併合問題も浮上している折から、継続されることを祈っているところです。

現在作製中の [生理活性脂質データベース] とは

- 1) 科学技術振興事業団 (旧日本科学技術情報センター) のデータベース化支援課題に [生理活性脂質データベース] として採択され、平成 8 年 12 月にデータ集積活動を開始したデータベースです。平成 8 年後期から平成 11 年前期までの 3 年間の予算で作業を行っています。
- 2) このデータベースは、インターネットを通じて世界中からアクセスできるようにする新しい構造の画像入りデータベースです。
- 3) [生理活性脂質データベース] は、脂質の専門家以外の人からのアクセスにも対応できるように、出来るだけ多くの脂質分野を網羅し、また、生理活性、レセプター情報など新しい情報を盛り込んだデータベースとします。

[生理活性脂質データベース] は、近畿大学林陽教授を中心に 10 年ほど前に始まった脂質データベースが基本になっています。この脂質データベースは、重井医化学研究所渡辺清博氏作製の MS-DOS によるデータベースで、その後、脂質生化学研究会の支援のもとに、年間約 300 万円の文部省科学研究費の助成と脂質生化学研究会会員の御協力により、10 年間で約 3000 件弱のデータが集められました。しかし、平成 8 年末に科学技術振興事業団の資金援助が得られたことから、全く新しいデータベースとして再構築することになったのです。MS-DOS で作製されたデータは文字情報のみでしたが、今回の [生理活性脂質データベース] には化学構造、IR や MS スペクトル、ガスクロマトグラフィーや HPLC などの脂質物理化学データが画像として取り込まれているのが特徴です。また [生理活性脂質データベース] という名前のとおり、脂質のもつ生理活性やレセプター情報など新しい情報を盛り込んであります。

【生理活性脂質データベース】プロジェクトの進捗状況
平成8年12月に本課題が立ち上がり、【生理活性脂質データベース】を作る新しいプロジェクトとして以下のような経過で進んできました。

- 1) 生理活性脂質データベース構築を円滑に行うため、生理活性脂質データベース構築検討会が発足（平成9年1月8日、賛同者約90名、構築検討会は平成9年1月1日より平成11年9月30日まで活動する）。また、生理活性脂質データベース構築検討会の中に、データベース構築責任者会議をおき、各脂質項目毎にデータベース構築の中核になれる先生方に会議の参加を依頼（27名）。
- 2) 平成9年1月、2月、4月、8月にデータベース構築責任者会議を開き、データベース構築の大枠が決定した。その討論と決定をふまえ、平成9年夏からデータ集積が開始された。
- 3) 【生理活性脂質データベース】は、生理活性を持つ脂質化合物に関する名称、物理化学的データ、所在およびその生理活性に関するデータベース、化学構造のデータベース、IRスペクトルやMSのスペクトル、クロマトグラフなどを含む画像データベース、および文献データベースをリレーショナルに結合した複合データベースとする。このデータベースの基本構造に関して現在のところほぼ決定している。
- 4) データベースの作製を担当する業者は、科学技術振興事業団により三井情報開発株式会社（MKI）と決定した。毎月システムエンジニアと事務局間で会議を開き、データベース構築に関しての討論を重ねている。平成10年8月、画像の扱いやデータ記入に関して改良した点をまとめ、データ記入小冊子改訂版を発行、各データ集積責任者に配布した。各脂質の検索項目については、今後さらに詳細に検討する必要がある。
- 5) 今回データを集積する脂質項目は、以下の27項目である（アルファベット順）。
ACYLGLYCEROLS, BILE ACIDS, DERIVED LIPID (fatty acid, long chain alcohol, long chain aldehyde, long chain base), ETHER TYPE LIPIDS, FAT SOLUBLE VITAMINS, (carotenoids, coenzyme Q, vitamin A, vitamin D, vitamin E, vitamin K), GLYCOLIPIDS (glyceroglycolipid, sphingoglycolipid), HOPANOIDS, ISOPRENOIDS, LIPOAMINO ACIDS, LIPOPOLYSACCHARIDES, LIPOPROTEINS, MYCOLIC ACIDS, PHOS-

PHOLIPIDS (PAF, glycerophospholipid, sphingophospholipid), PROSTANOIDS, STEROIDS, WAXES

- 6) インターネットを通じて世界中からアクセスできるデータベースにするため、英語でデータを集積する。既存データで英訳が必要な部分については英訳作業を行う予定。
- 7) データ提供者による文字データの事務局への送付方法については、データベースソフトを用い（Mac版ファイルメーカーProまたは、Windows版アクセス）、事務局が提供するデータ入力用の形式ファイルと文献用ファイルに直接書き込んで事務局へ送付する。（データ記入の手引き、平成10年8月改訂版発行）
- 8) 約3000件弱の過去に集積したデータはMS-DOS版のファイルのため、これを事務局でMac版ファイルメーカーProまたは、Windows版アクセスに移行し、データ集積の責任者に検討を依頼した。しかし、日本語で書かれているため、英訳する必要がある上に、そのまま新しいデータベースに使える件数は少なく、殆どが新規に作製の必要がある事がわかった。
- 9) 現在3年間で6000件を目標にデータを集積しているが、平成9年度分として、1500件を集積。平成11年2月に予定しているデータベース構築責任者会議の席上で平成10年度の集積総数が判明する予定である。これをふまえ、最終年度の集積予定数を決めたいと考えている。

【生理活性脂質データベース】の将来

【生理活性脂質データベース】は、科学技術振興事業団と国立国際医療センターの共同研究として発足したため、完成したデータベースは、形式上は国立国際医療センターに置かねばなりません。しかし、出来上がったデータベースは、現状維持だけでなく、将来追加修正が必要で、そのための一番よい方法をこれから考えていく必要があります。データを提出してくださった方々の連絡先リストや今後のデータ修正に関しての組織が出来ていますので、あとはどう運用していくかです。将来は、日本脂質生化学研究会が維持管理してゆくのが一番良いと私自身は思っています。データベースを現状維持だけでなく、今後追加修正してゆくためには、何らかの資金が継続される必要があります。私が今年国立国際医療センターを定年退職しますため、国際医療センターから研究費の

継続申請を出すことは難しいと思われ、現在より良い方法を検討しています。皆様のご意見を伺いつつ最も良い方法を考えていきたいと思っております。

また、出来上がった【生理活性脂質データベース】の公開の際には、日本生化学会や、学会事務センターなどのホームページとリンクして、世界中のどこからでもアクセスできる誰もが使い易いデータベースにする事を心がけたいと考えております。現在のペースでは3年間で脂質27項目全部のデータベースを完成させ、公開する事は難しいと思われませんが、まとまった項目から順次公開していく予定です。

実際、データ情報の保護と著作権の問題に関しては、いまのところは日本国内に十分な法律ができておらず、公開に関しては今後詰めていくべき事が多々あります。しかし、世界で初めての脂質データベースということで、外国からの問い合わせもすでにあり、正しいデータを提供してゆきたいと思っています。

なお、本年度のなるべく早い時期に、作製途中のデータベースを常時公開して、皆様にご覧いただけるように、サーバーの移行を考慮中です。いつでも脂質生化学研究会方々が見られるようにする積りです。百聞は一見に如かずという言葉どおり、実際にご覧になると、このデータベースの修正すべき点が明らかになると思います。多くの方に実際に見て頂き、皆様のご意見をうかがって、改良して行きたいと思っています。皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

もし、この【生理活性脂質データベース】についてのご意見や、アイデアをお持ちでしたら、いつでも下記までご連絡いただくと有り難く思います。

電話：03-3202-7181（内線2810）

FAX：03-3202-7364、e-mail：oshima@lmcj.go.jp

国立国際医療センター研究所代謝疾患研究部 大島 美恵子

第39回国際脂質生化学会議（ICBL）に参加して

名古屋市立大学薬学部

池澤宏郎

第39回国際脂質生化学会議（International Conference on the Biochemistry of Lipids、39th ICBL）は、1998年9月23日から26日までスイスのダボス（Davos）で開催された。ダボスといわれても、我々日本人にはピンと来ないが、スイスの東部にあって、ヨーロッパでは行楽地の1つとして知られている。カジノもあって、アメリカのラスベガスと競り合っているような広告のパンフレットもあったが、静かな落ち着いた街で歓楽街のムードは感じられなかった。高い山の間で横に細長く伸びた街で、ICBL会場であるCongress Centerは道路から少し降りたところにある。主催者の話では、常時複数の会議が開催されていて、登録に赴いた23日に私が聞いたところでは、「明日には別のドアが開けられるが、今日は無理だからこちらから入ってくれ」という有り様だった。

今回の会議の主催者は、ベルン大学のOn教授（議長）とチューリッヒ大学のHauser教授（副議長）で、会議の3大テーマである(1) Cellular trafficking of cholesterol and other lipids、(2) Biophysical aspects of membrane lipid research、(3) Functional aspects of membrane lipid topologyのシンポジウムの部は、それぞれ24日、25日、26日に割り当てられていた。会議の日本人参加者は同伴者をも含めて十数人ほどであったが、特筆すべきは、京大薬学部の半田哲郎教授のような物理化学者の先生たちの参加が見られたことである。これは会議のテーマ(2)が物理化学的テーマであったためで、半田先生は「いつもこんなテーマであるならば、毎回来たいくらいだ」と張り切っておられた。

23日夕の第2回L.L.M van Deenen教授記念講演は、バーゼル大学のRiezman教授が、“Two distinct requirements for ceramide synthesis in membrane traffic in yeast”と題して講演された。酵母の細胞でセラミド合成が阻害されると、2つの膜タンパク質輸送ルート、すなわちエンドサイトーシスによる輸送と小胞体→ゴルジ体へのGPIアンカータンパク質の輸送がブロックされるという内容で、大変興味深い話であった。

テーマ(1)のシンポジウムでは、CD36、CLA-1など血清中のリポタンパク質に対する受容体がコレステロールの取り込みに果たす役割に触れたも

のが多かったが、スフィンゴ脂質-コレステロールのいわゆる「筏」でタンパク質を膜へ輸送する際の飽和脂肪酸の役割を、ジパルミトイルPC-コレステロールのリポゾーム系を使って調べる (D.A. Brown 教授) というものもあった。

テーマ(3)のシンポジウムは、膜脂質のトポロジー、特にリン脂質の不斉分布の問題を長い間手がけてこられたZwaal教授 (オランダ、マーストリヒト大学) の講演で始まったが、私としては米国ウイスコンシン・マジソン大学のMenon教授、インド国立生物科学センターのMayor博士 (共にインド出身) のGPI生合成と膜上のGPIアンカータンパク質の存在状態の話



の方に心ひかれるものがあった。そこでは、GPI糖鎖生合成の初期段階が小胞体膜上のミトコンドリアと結合したミクロドメインで行われること、細胞膜表面上でGPIアンカータンパク質がクラスターとなって、いわゆるサブミクロン・ドメインに集まった形で広く分布しており、その意味で「筏」らしきものが実在すること、この筏はコレステロールが不足すると壊れること、等のフレッシュな報告があった。

25日の午後2時30分、全参加者はダボス・プラッツ駅前に集合して貸

切列車に乗り、エクスカーションに行った。まず、サメダンを經由してブント・ムラグルへ行き、そこからケーブルカーに乗り換えて、サン・モリッツの町や湖、サメダンの町を見ながら、ムオタス・ムラグルの山 (標高2456 m) の頂へ登って行った。山頂のレストランや展望台から眺望を楽しんだ後、サメダンへ帰ってホテル・ベルニナでディナーを楽しみながらICBLの組織委員会の話を聞いた。席上、ポスター・セッションの審査結果が発表され、日本の国立感染症研究所の花田賢太郎氏らのポスターが見事にベストポスター賞2位に入賞した。同氏の演題は“A mammalian cell mutant defective in intracellular trafficking of ceramide for sphingomyelin synthesis”である。Congratulations! なお、次の第40回ICBLはフランスのDijonということである。

27日、早朝午前9時5分の氷河特急を帰途に利用したが、同じ列車をICBLの参加者たちがかかり利用していた。このコースは眺望が優れているので、多くの参加者が往きか帰りに利用したと思う。

第39回国際脂質生化学会議：台風一過晴れ

花田賢太郎（感染研・細胞化学）

1ページ分の追加記事をとの御依頼がありましたので、会議の学間的要点は、池沢先生におまかせして、私の個人的な体験談だけを書きたいと思います。

この会議のために用意されたチューリッヒ・ダボス間のバスに必ず間に合うようにと、関西国際空港発ながらもバス出発前日にチューリッヒ到着予定の直行便をわざわざ予約していました。しかし、なんと台風が関西を直撃し、搭乗機離陸直前に空港閉鎖となり、結局24時間遅れの到着で、チャーターバスには間に合わずじまい。「ついてないな」という気分を、「スイス鉄道1人旅も楽しい経験だ」となだめつつ、どうにか目的地へ到着。

会場に着きますと、レセプションパーティーがすでに始まっておりました。こういったパーティーは元来苦手で臆してしまい、英語での意志疎通の先行きに少々不安になりました。しかし、発表内容は細胞内脂質輸送に関するブレイクスルーとなる可能性を秘めていると自負しており、ポスターも共同研究者の深澤博士が作成した大変きれいな出来上がりで、これを無駄にしては共同研究者諸氏に申し訳ないと、本番では私達のポスターの前に興味あり気に立ち止まっている人には“May I explain this poster?”などという少々怪しい中学生英語ながらも積極的に応対し、何人かの人は特に興味を示してくれたという手応えを感じることができて、私自身はそれだけで満足しておりました。

会議3日目のディナーの時です。脊山洋右先生が突然わたしの席に近づいて、「何か良いことがあるかもしれないから一言考えておきなさい」と囁かれます。何の意味も全くわからずに食事の続け、もう一度脊山先生の囁きかけがあったにもかかわらず、「先生、だいぶ酔っていらっしゃる御様子」などと失礼なことを思っていたその直後、ポスター賞の発表をこれからすると組織委員から放送があり、さすがに気が付いて、心の準備をすることができました。同じテーブルの諸先生方から祝福の握手などもされ、嬉しいやら照れくさいやら、いや実に晴れがましい一時でした。皆さんどうもありがとうございました。

第40回国際脂質生化学会議(ICBL)

第40回国際脂質生化学会議(ICBL)がフランスのDijonで開催されます。ここは人口が250,000人のうち30,000人が学生という学園都市であり、美食の町としても知られております。パリからTGVで95分の位置にあります。

トピックス：

1. Gene Expression and Fatty Acid Metabolism
 2. Conjugated Polyenoic Fatty Acids
 3. Free Radicals and Membrane Lipids
- その他、脂質生化学全般が対象となります。

会期：平成11年9月14日～17日

会場：Burgundy 大学キャンパス

icbl

40th International Conference
on the
Biochemistry of Lipids



September 14 - 17, 1999
DIJON, France

First Announcement

演題申込みの締切：平成11年4月

連絡先：

Professor Jean-Pierre Poisson

40th ICBL

Université de Bourgogne

Faculté des Sciences Mirande

Unité de Nutrition Cellulaire et Métabolique

B.P. 400, 21011 Dijon cedex, France

Fax: +33 3 80 39 63 30

E-mail: jppoiss@u-bourgogne.fr

Professor George J. Schroepfer, Jr. の死を悼む

赤松 穰



George J. Schroepfer, Jr. 教授が平成 10 年 12 月 11 日に心臓発作で亡くなりました。享年 66 歳でした。心から御冥福をお祈り申し上げます。

同氏は米国(Rice University Houston, Texas)のDepartment of Biochemistry and Cell Biology, 並びに Department of Chemistry の教授として、また Basic Medical Science の Director としても御活躍中でした。

同氏は心臓病におけるcholesterolの重要性に関する先駆的な研究で世界的に認められた研究者で、cholesterolの生合成、その阻害剤の研究、更にはsphingolipidsの生物学的役割の研究などで国際的に大変高名な学者でありました。

同教授は日本脂質生化学研究会で御活躍中の多くの研究者の方々と共同研究などを通じて交流があり、来日の度に大学や研究所で誠心誠意講演をされるなど、日本の脂質研究の発展に貢献された研究者でした。滞在中に1-2度日本脂質生化学研究会にも出席されたので、同教授をご存じの方も多いと思います。

今回、同教授の訃報に接し、日本脂質生化学研究会の皆様にお知らせすると同時に、同教授の御冥福をお祈りしたいと思います。



1 第 40 回日本脂質生化学研究会・研究集会の開催

実行委員長：矢野郁也教授（大阪市立大学・医学部）

日時：平成 10 年 7 月 2 日（木）、3 日（金）

場所：大阪市立大学・医学部・医療研修センター
（あべのメディックス 6・7 階）

演題数：特別講演 1 題、シンポジウム 11 題、一般演題 71 題

参加数：250 名

研究集会は新しく建てられた立派な医学部学舎に隣接した医療研修センターで開催されました。一般講演に加え、Brennan教授による特別講演、11名の演者によるシンポジウムなど、研究集会は大変盛会のうちに終わりました。矢野郁也実行委員長を始め、教室のスタッフの方々から心暖まるお世話をいただきました。厚くお礼申し上げます。研究集会活動につきましては、別掲の実行委員長の報告をご覧ください。

2 第 40 回日本脂質生化学研究会総会

平成 10 年 7 月 2 日（木）午後 5 時 45 分より、天王寺都ホテルの懇親会場において開催された。

総会次第

野島庄七会長の挨拶の後、第 40 回研究集会実行委員長矢野郁也教授の挨拶に引き続き、以下の議事が進行された。

議事

(1) 平成 9 年度事業報告及び決算報告

平成 9 年度の事業及び決算が配付資料に沿って報告された。研究会事務局の業務は通常どおり円滑に進んでいるとの報告がなされた。決算については収支がほぼ均衡しており、健全財政であるとの報告がなされた。

(2) 平成 9 年度決算報告につき監査の結果が報告され、承認された。

(3) 平成10年度事業計画案

平成10年度における、第40回日本脂質生化学研究会・研究集会、第40巻脂質生化学研究(要旨集)の発行、脂質生化学研究Circular1998の発行、第40回総会、第1回および第2回幹事会の事業計画案が説明され、承認された。

(4) 平成10年度予算案

ほぼ例年通りの平成10年度予算案が提案され、承認された。

(5) 新幹事・名誉会員について下記の事項が承認された。

- イ) 新幹事の就任(平成11年1月1日～平成14年12月31日迄)
岩森正男会員(近畿大・理工学部)
- ロ) 平成10年12月31日任期終了予定の幹事の再任(平成11年1月1日～平成14年12月31日迄)。
- ハ) 永井克孝会員が名誉会員に推薦され、承認された。

(6) 平成11年1月1日以降の日本脂質生化学研究会の会長として、
脊山洋右教授(東大・医学部)が承認された。

(7) 平成11年度(第41回)研究集会の準備状況の報告

実行委員長 北里大学・医学部・生化学教室 玉井洋一教授
日時:平成11年6月3日(木)、4日(金)
場所:鎌倉市・鎌倉プリンスホテル
実行委員長より研究集会の日時、会場、また企画されているシンポジウムや特別講演の内容について報告があった。

(8) 平成12年度(第42回)研究集会の実行委員長の選出

平成12年度研究集会の実行委員長に古賀洋介教授(産業医科大学・生体物質化学教室)が選出された。

(9) 奥山治美教授(名古屋市大・薬学部)より、国際脂肪酸脂質学会・第4回大会(ISSFAL 2000)の開催(2000年6月6日(火)、つくば国際会議場)について説明があった。日本脂質生化学研究会がこれに協賛することが了承された。

3 平成10年度第一回幹事会

平成10年7月2日(木)正午より、大阪市立大・医学部・医療研修センターの会議室において開催された。出席者52名(氏名略)。総会に提案すべき事項を審議した。
議事内容は、総会と同じ。

4 平成10年度第2回幹事会

平成10年11月20日(金)午後6時より、日本薬学会長井記念館で開催された。
出席者:野島庄七(会長)、赤松 稔(庶務幹事)、瀬高守夫(会計幹事)、植田伸夫(会計監査)、阿部敏明、荒木英爾、石塚稲夫、伊藤俊洋、工藤一郎、古賀洋介、児島英也、鈴木康夫、脊山洋右、高野達哉、玉井洋一、西村顕治、飯田静夫、保坂公平、吉岡亨、和久敬蔵(以上20名)

議事

(1) 平成10年度事業報告

- ①会員数 正会員769名(平成10年12月1日現在)
但し、新入会35名、退会24名
名誉会員15名(平成11年度事業計画の項参照)
賛助会員17社(同上)

役員 会長 野島庄七(任期平成10年12月31日迄)
庶務幹事 赤松 稔(同上)
会計幹事 瀬高守夫(同上)
会計監査 植田伸夫(同上)
幹事 (平成11年度事業計画の項参照)

②事業

- イ) 第40回研究集会の開催(実行委員長 矢野郁也教授)
日時:平成10年7月2日(木)、3日(金)
場所:大阪市立大学・医学部・医療研修センター
演題数:特別講演1題、シンポジウム11題、一般71題
参加数:250名

ロ) 脂質生化学研究 40 巻の発行 (本文 321 頁)

ハ) 脂質生化学研究 Circular 1998 の発行 (本文 47 頁)

二) 総会及び幹事会の開催

総会 平成 10 年 7 月 2 日 (木) 天王寺都ホテル・懇親会会場

第 1 回幹事会：平成 10 年 7 月 2 日 (木) 大阪市立大学・

医学部・医療研修センター・会議室

第 2 回幹事会：平成 10 年 11 月 20 日 (金) 日本薬学会長井

記念館 1 階会議室

③ 新役員・新幹事・名誉会員について

第 40 回日本脂質生化学研究会総会 (平成 10 年 7 月 2 日) に

おいて総会議事(5)、(6)のように新会長・新幹事・名誉会員

が承認された。

(2) 平成 10 年度決算報告 (決算表参照)

決算表に基づいて説明がなされ、承認された。

(3) 平成 11 年度事業計画

① 会員数 正会員微増の見込み

② 役員： 会 長 脊山洋右 (平成 12 年 12 月 31 日迄)

庶務幹事 清水孝雄 (同上)

会計幹事 山田信博 (同上)

会計監査 植田信夫 (同上)

③ 幹事

(任期 平成 11 年 12 月 31 日迄)

赤沼安夫、秋野豊明、阿部敏明、荒木英爾、有田 斎、安藤 進、
猪川嗣郎、板倉弘重、市原宏介、伊藤俊洋、井上圭三、入谷信子、
遠藤 章、大島美恵子、大橋昌子、岡田伸太郎、岡本光弘、奥田
拓道、奥山治美、小野輝夫、川口昭彦、菊川清見、斉藤政樹、洪
谷 勲、杉田陸海、鈴木明身、谷口直之、玉井洋一、中川靖一、中
野益男、西村顕治、野沢義則、野間昭夫、広野治子、水柿道直、
和久敬蔵

(任期 平成 12 年 12 月 31 日迄)

上田隆史、加納英雄、賀佐伸省、北 徹、楠瀬正道、斉藤恵実、菅
野道廣、武内 望、武富 保、秦 葭哉、飯田静夫、平山 修、藤
本健四郎、堀内正公、松沢佑次、三成 脩、三輪匡男、保田立二、
山下 哲、山田晃弘、山本徳男吉岡 亨、渡辺清博

(任期 平成 13 年 12 月 31 日迄)

猪飼 篤、池沢宏郎、石塚稲夫、石橋輝雄、伊藤精亮、大木和夫、
鬼頭 誠、古賀洋介、里内 清、瀧 孝雄、竹縄忠臣、田辺 忠、
保坂公平、室伏きみ子、村田紀夫、矢野郁也、山本尚三、横山信
治

(任期 平成 14 年 12 月 31 日迄)

赤松稜、岩森正男、宇田 裕、内海英雄、工藤一郎、島崎弘幸、鈴
木康夫、瀬高守夫、高桑雄一、高野達哉、塚谷博昭、二本鋭雄、西
島正弘、宮澤陽夫

(以上 94 名)

名誉会員

山川民夫 (名誉会長)、今井 陽、数野太郎、金田尚志、児島英也、
斉藤国彦、内藤周幸、野島庄七、野田万次郎、林 陽、藤野安彦、
牧田 章、松本 亮、永井克孝、山添三郎、山本 章

(以上 16 名)

④ 事業

イ) 平成 11 年度 (第 41 回) 研究集会

実行委員長：北里大学・医学部・生化学教室 玉井洋一教授

日時：平成 11 年 6 月 3 日 (木)、4 日 (金)

場所：鎌倉市・鎌倉プリンスホテル

ロ) 脂質生化学研究 41 巻発行

演題募集 (脂質生化学研究 Circular1999 発行)：2 月上旬

演題申込および原稿締切：3 月 31 日 (水)

演題受け付けの通知 4 月上旬

プログラム編成会議 4 月 20 日頃

入稿 4 月下旬

講演集発送：5月中旬

ハ) 脂質生化学研究 Circular1999 の発行

2月上旬

二) 会議

日本脂質生化学研究会・総会：平成11年6月3日

第1回幹事会：平成11年6月3日

第2回幹事会：平成11年11月

(4)平成11年度予算（予算表参照）

予算表に基づいて説明がなされ、承認された。

(5)平成11年度（第41回）研究集会の準備状況の報告 玉井洋一実行委員長

配布資料に基づき、特別講演やシンポジウムの企画内容、発表演題申し込み手続の変更、会場付近の交通、宿泊施設について詳しい説明がなされた。

(6)平成12年度（第42回）研究集会について

古賀洋介実行委員長から日時・会場が次のように決まったとの報告がなされた。

日時：平成12年6月16日（金）、17日（土）

場所：北九州国際会議場

(7)その他

○平成10年度決算表及び平成11年度予算表

収入の部 項 目	平成10年度		平成11年度
	予算	決算	予算
正会員会費	2,277,000	2,123,000	2,388,000
入会金	80,000	62,000	80,000
賛助会員会費	640,000	640,000	640,000
講演集売上	150,000	49,000	150,000
広告収入	1,000,000	815,850	1,000,000
利子	10,000	973	1,000
寄付金	0	0	0
雑収入	0	0	0
小 計	4,157,000	3,690,823	4,259,000
前年度よりの繰越金	3,099,301	3,099,301	2,548,724
計	7,256,301	6,790,124	6,807,724

支出の部 項 目	平成10年度		平成11年度
	予算	決算	予算
研究集会補助	800,000	800,000	800,000
会報製作費	130,000	250,000	130,000
講演集製作費	1,350,000	1,460,000	1,350,000
旅費	120,000	50,000	120,000
郵送料・通信費	450,000	460,949	450,000
事務用品費	100,000	69,375	100,000
会合費	200,000	207,614	200,000
謝金	50,000	0	50,000
総会経費	5,000	5,000	5,000
事務経費	250,000	250,000	250,000
事務委託費	650,000	686,353	720,000
雑費	50,000	2,109	50,000
小計	4,155,000	4,241,400	4,225,000
次年度への繰越金	3,101,301	2,548,724	2,582,724
計	7,256,301	6,790,124	6,807,724

賛助会員

- (10口) エーザイ (株)
- (5口) 大日本製薬 (株)
塩野義製薬 (株)
キッセイ薬品工業 (株)
- (4口) 三共 (株)
住友製薬 (株)
藤沢薬品工業 (株)
山之内製薬 (株)
- (3口) (株) 資生堂
(株) 東京化学同人
第一製薬 (株)
東京田辺製薬 (株)
雪印乳業 (株)
- (2口) 花王 (株)
大塚製薬 (株)
(株) ヤクルト本社
萬有製薬 (株)

(以上 17 社・64 口)

研究会事務の取り扱い内容と連絡先

[I] 日本脂質生化学研究会事務局で扱う事務

- 1 Circular の原稿依頼・編集等
- 2 研究集会の演題受付
- 3 要旨集の原稿受付・編集等
- 4 総会・幹事会の案内・資料作成等
- 5 その他

連絡先:

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部代謝生理学教室内
日本脂質生化学研究会事務局
Tel (Fax) 03-5689-2704

[II] (財) 日本学会事務センターで扱う事務

- 1 Circular および要旨集の発送とその未着クレームの受付
- 2 年会費の請求および徴収
- 3 所属・住所・氏名等の変更の受付
- 4 入会・退会の受付

連絡先:

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
(財) 日本学会事務センター会員業務部
Tel 03-5814-5810
Fax 03-5814-5825

編集後記

6 年間にわたって本会の実務をこなして戴いた瀬高守夫教授に会員を代表して厚く御礼申し上げます。庶務と会計の両面を処理するのは大変であることが引き継いでみてわかりましたが、先生は黙々と務めてこられたことに改めて敬服の念を抱きました。ご苦勞様でした。更なる発展に向けて微力ながら努力いたしますので、ご指導下さい。(YS)